



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

「とうきょう すくわくプログラム」は、  
すべての乳幼児の「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探求心（わくわく）」を応援する幼保共通のプログラムです。

五日市わかば保育園は とうきょうすくわくプログラムに参加しています。



# 令和6年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号:66-0469  
五日市わかば保育園  
あきる野市五日市98  
社会福祉法人勸能力福祉会

## 1.活動のテーマ 人の暮らし

五日市わかば保育園には野菜やお米を育てて収穫体験ができる「わかば農園」があります。子どもたちは作物の成長や変化に気づき、また、虫や生き物にも出会い目を輝かせます。収穫した野菜をいただきながら過ごす一年。そして家族や仲間と感謝して新しい年を迎えるという日本の昔からの暮らしに触れ、子ども達自身がそれぞれに感じて、吸収してほしいと願います。野菜の栽培や収穫、稲作をし、収穫したもち米で鏡餅を作って新しい年を迎える…「人間だけが使える火」もクローズアップしながら、暮らしを豊かにする日本の文化を知り 子どもたちが自分で感じて深めていけるようテーマを設定しました。

## 2.活動スケジュール

- 4月・5月:園庭での栽培活動
- 6月:田植え
- 7月:七夕(笹燃やし)・キャンプファイヤー(火起こし)・花火  
野菜の収穫・調理
- 10月:稲刈り
- 12月:キャンドルサービス  
もちつき・鏡もち作り
- 2月~3月畑作り

### 3.活動をするための環境

園庭・わかば農園

### 4.活動①

4.5月～ 植物の栽培



土のおいを感じながらの土入れ。  
ナス・ピーマンの苗、大根のインゲンの種…それぞれに違いを感じながら苗植えや種まきをしていました。  
同時に「もう、大根できるかな？」野菜が成長するには時間が必要であることを体験します。

「大きくなあれ！」と気持ちをこめての水やりをして、「大きくなった」「葉っぱがチクチクする」「葉っぱが2つになったね」等成長に気づいていました。身近な栽培は五感を使って植物の変化を知り、さらに興味を持っていることがわかりました。  
給食に栽培している野菜が出ると、何度も繰り返して「ピーマン？これ、ピーマン？」と繰り返している姿も見られました。



## 火の活動



### 7月 七夕の笹燃やし

火からは離れていますが、火と立ち上る煙に自分の願いをこめて見つめていました。



### 7月 火起こし・キャンプファイヤー

人は火を使うことができます。「火を使ってどんなことをするのか?」「お料理する」「寒い時に温くなる!」「明るい」便利だけど、怖いこともある ということに気づきました。まいぎり式の火起こし器での火起こしは苦勞しますが、粘り強く頑張っ 火が付いた時には大歓声!!「やったー!」みんなで喜び合いました。「昔の人ってすごいね」を実感しました。みんなで起こした火を囲んでのキャンプファイヤー、心から楽しんでいました。

### 12月 キャンドルサービス

距離を取って見ていた火を自分の手の中に灯します。最初はちょっと心配だけど、静かな時間を楽しみ、火が消えてもお友達からもらうこともできていました。



## 稲作 もちつき・鏡餅作り

### 6月 田植え



### 10月 稲刈り



### 12月 もちつき 鏡餅作り



鏡餅

泥んこの田んぼに入っの田植えは、冷たい感触に「キャー!つめたい!」「うわあ!ヌルヌル~」「おもしろい!」と次々に声が上がりました。カエルやアメンボにも興味深々でした。秋…しっかり実をつけたもち米の稲穂を鎌で刈りました。鎌の刃先が当たらないように慎重に扱っていました。冬…収穫したもち米で園全員でおもちつき。蒸かしたもち米がお餅になっていく様子もよく見ていて「見て!のびるよ!」と杵についたお餅を見ていました。年神さまのよりどころ 鏡餅を作って新しい年を迎えました。



## 5.ふりかえり

自然と関わりながら生きてきた人の暮らしについて体験することで、子どもたちは自分で感じ取って自分で学び取っていました。植物の成長、変化に気づいた時には自分で考えた言葉で伝えようとしていました。火の起こし方、稲から鏡餅にするまでのプロセスを知ると その事柄自体を楽しみながら、仕組みや大変さも感じ、火や米、そして扱う自分や仲間も大事にしようとする姿がありました。

あわただしく、忙しい社会の中で、

○じっくり植物の育ちを見つめ、自分で気づく、

○ゆっくりと時間をかけて育てる、作る。

○丁寧に扱い 自分も相手も危険や不安の内容にコントロールする

こういったことを大人が伝えるだけでなく、自分で体験することで多くを学んでいったと感じました。

今後も。子どもたちが自分でできる環境を用意しながら、幼児期に感じて、体験してほしいことを園の環境の中で考え、とりいれていきたいと思いました。